

- 配偶者選択. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 9: 281.
- 8) 小林隆(1994):都井岬の半野生馬におけるにおいづけ行動.第41回日本生態学会講演要旨集. 71.
- 9) 小川秀司(1993):霊長類におけるしかえしシステムの進化.第9回日本霊長類学会大会.霊長類研究,9: 296.
- 10) 小川秀司(1993):霊長類におけるしかえしシステムと弱虫ゲームにおけるTFT戦略.日本動物行動学会第12回大会発表要旨集, 35.
- 11) 杉浦秀樹・揚妻直樹・田中俊明(1993):西部林道におけるヤクシマザルの餌付きの実態.平成5年度京都大学霊長類研究所共同利用研究会・屋久島のニホンザル地域個体群の構造と保存.
- 12) 田中香(1993):野生ニホンザルの採食場所選択とその発達.第40回日本生態学会大会講演要旨集,133.
- 13) 田中香(1993):野生ニホンザルの採食行動の群間比較.日本動物行動学会第12回大会発表要旨集,35.

## 行動神経研究部門

### 思考言語分野

松沢哲郎<sup>1)</sup>・藤田和生<sup>2)</sup>・友永雅己<sup>3)</sup>  
平成6年4月1日新設

### 認知学習分野

小嶋祥三・松沢哲郎<sup>1)</sup>・藤田和生<sup>2)</sup>・友永雅己<sup>3)</sup>・中村克樹<sup>4)</sup>・南雲純治

### 研究概要

- A) チンパンジーの聴覚と音声に関する研究  
小嶋祥三・橋彌和秀<sup>5)</sup>  
視覚-聴覚間の見本合わせ課題により, チンパンジーの感覚間統合の研究を行った。チンパンジーにとってこの課題の獲得, 遂行は容易でないが, 聴覚刺激に基づいて「人」, 「物」の概念が成立していることを示唆する結果を得た。
- B) 老齢ニホンザルの認知機能の研究  
小嶋祥三  
連続物体弁別逆転学習により, 老齢ニホンザル

の保続あるいは学習セット形成に関係する認知機能を検討した。個体差があるが, 一般に若年のサルと比較して, 連続逆転の成績が劣っていた。

C) 飼育下チンパンジーの出会い場面の音声および社会的交渉

小嶋祥三・岡本暁子<sup>5)</sup>・揚妻直樹<sup>5)</sup>

別の居室で夜を過ごす2群のチンパンジーを開放飼場で出合わせ, その時生じる音声を含む社会的交渉を検討した。群間の個体の交換などいくつかの実験的操作を行い, その影響を調べている。

D) チンパンジーの認知的・言語的機能の比較認知科学研究

松沢哲郎・友永雅己・Iver Iversen<sup>6)</sup>・田中正之<sup>5)</sup>・日上耕司<sup>7)</sup>

チンパンジーとヒトを対象に, 認知的・言語的機能の比較研究をおこなった。文字や数の体系とその記憶, コンピュータ利用の描画行動, 指さしや身ぶりによるコミュニケーション, 放飼場での社会的知能の研究などをおこなった。

E) 野生チンパンジーの道具使用と文化的変異  
松沢哲郎

西アフリカのギニア・ボソウとコートジボワール・ニンバの野生チンパンジーを対象に, 道具使用にみられる認知発達を研究し, 文化的伝播の実態と機構について調査した。

F) マイノリティーの文化的伝統と教育  
松沢哲郎

パキスタン・フンザ地方からパミールを越えて中国カシュガルに到る地域で, ブルシャスキー族とキルギス族を対象に, 社会変化と教育の役割にかんする野外調査をおこなった。

G) 霊長類の錯視知覚に関する比較心理学的研究  
藤田和生

アカゲザルとチンパンジーを対象に, ポンゾ錯視の知覚の分析をおこない, ヒトやハトと比較した。

H) ニホンザルの視覚探索

藤田和生・金沢創<sup>5)</sup>

- 
- 1) 5.9.1 認知学習分野より思考言語分野へ
  - 2) 5.12.1 認知学習分野より思考言語分野へ
  - 3) 5.11.10 認知学習分野より思考言語分野へ
  - 4) 6.3.9 行動発現分野より認知学習分野へ
  - 5) 大学院生
  - 6) 招へい外国人学者/外国人研究員
  - 7) 日本学術振興会特別研究員